

## 第8分科会〔経営課題〕

# 多様な人材の専門性を生かした 『チーム学校』と『働き方改革』 の実現」

東西しらかわ校長会  
西郷村立川谷中学校 校長 早川 貢

## I 研究の趣旨

### (1) SC・SSW等専門スタッフの配置

- ① 教職員と専門スタッフとの協働
- ② それぞれの専門性を生かして能力を発揮する  
「チーム学校」の構築

### (2) コミュニティ・スクール等の活用

- ① 学校と地域の連携体制を整備
- ② 地域と共にある学校づくりの推進

教員が担うべき

業務の精選・明確化

どのように教員の「働き方改革」の実現を図るか

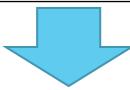
## II 研究の概要

### 1 研究の方向

教職員と多様な人材（専門スタッフ）との連携の強化



高い教育力を持つ組織をマネジメント



- ① 課題を明確にした研究の推進
- ② 実践事例の集約と研究の共有化

### 2 研究の視点

学校の実態（強みや弱み）に応じた視点を選んで  
の研究実践

視点1 教職員や多様な人材の専門性を活用し、  
組織力を高める学校経営の在り方

視点2 チームとしての学校と地域の連携・協  
働体制の在り方

視点3 専門スタッフ等との連携による教員の  
働き方改革の実現

### III 研究の方法

- ① 研究の視点に沿って研究実践を進め、校長としての関わりを明確にする。
- ② 各校の実践事例を基に課題を明確にするとともに、成果や課題を共有する。
- ③ 成果や課題を踏まえ、研究実践計画を修正し、さらなら実践を積み重ねる。

### IV 研究の実践

**視点1 教職員や多様な人材の専門性を活用し、組織力を高める学校経営の在り方**

**【事例1】 多様な人材の専門性を活用し、組織力を高める取組**

① 実践のねらい

学校図書館の活用や不登校対策など、教員が一手に担ってきたものを、専門性がある人材の活用を通して「チーム学校」の実現を図る。

## ② 実践の実際と校長としての関わり

- ア 学校司書と協働した学校図書館の環境の整備・充実
- イ SC・SSW・SSRを活用した不登校生徒の支援  
と新たな不登校生徒の出現ゼロ
- ウ 部活動指導員等を活用した競技力の向上

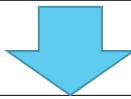


## ③ 考察

専門性をもつ人材が配置されてから、効果が少しずつ表れている。



- 学校図書の貸し出し冊数 [利用者] の増加
- 不登校の生徒数の減少



校長としてビジョンを示し、RPDCAサイクルを働きさせながら、経営課題の改善に向けて取り組む。

## 【事例2】 地域サポーターを活用し、学校と地域 を繋ぐ持続性のある取組

### ① 実践のねらい

- 中学校区内の小学校（4校）  
地域サポーターが多く登録し、継続性と発展性を持ち機能している。
- 中学校  
地域サポーターが形骸化し、学校と地域が結びついていない実態がある。

地域学校連携本部と協力し、地域サポーターを活用した学校と地域を繋ぐ持続性のある取組の推進を図る。

### ② 実践の実際と校長としての関わり

- ア 地域サポーター選出に向けての準備
- イ 地域サポーターへの趣旨説明
- ウ 地域連携担当教職員と地域サポーターのコーディネート

### ③ 考察

- 教育課程の中に地域の人材活用を位置づけ、授業や研修に参画してもらうことを通して、生徒が本物に学ぶ機会を設定することができた。
- 事前打ち合わせ、場面や時間の設定の難しさなどの点を踏まえ、実践と反省を積み重ね、継続した取組につなげている。

## 視点2 チームとしての学校と地域の連携・ 協働体制の在り方

### 【事例1】 地域学校協働活動事業を活用した取組

#### ① 実践のねらい

- 地域コーディネーターを積極的に活用し、学校と地域のつながりを強化する。
- 様々な体験・交流、学習活動を行い、生徒の社会性を育み、地域コミュニティの活性化と地域社会全体の教育力の向上を図る。

#### ② 実践の実際と校長としての関わり

- ア 地域コーディネーターを通しての地域の行事やボランティアへの参加
- イ 職場体験における学校と事業所との連絡・調整
- ウ 幼・小・中学校、地域との連携・協働



### ③ 考察

- 地域に精通している地域コーディネーターの活用を通して、地域との関わり方の幅が広がった。
- 生徒が興味・関心を高めて学習に取り組み、学校と地域の連携・協働の質を高めることができた。



- 効果的な活用には、詳細な打合せの機会や活動しやすい環境を整えることが重要である。
- 地域全体で子どもの学びや成長を支えるためには、地域コーディネーターと学校や行政が対話する機会を増やし、共に課題解決や協力者の確保に努めることが大切である。

## 【事例2】 コミュニティ・スクールと地域学校協働 活動の一体的推進を目指した取組

### ① 実践のねらい

地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となった仕組みであるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図る。

### ② 実践の実際と校長としての関わり

#### ア コミュニティ・スクール

学校教育目標等についての意見や教育課程の承認とともに、学校評価を含め、学校経営を行う上での参考にしている。



### 令和7年度 地域との連携方策について（CS構想）

【ねらい】「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校と地域社会がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な仕事を行うことにより、未来を担う子どもたちの心身ともに健やかな成長を促すことを目的とする。

- 【国・県・市施策を受けて】  
○「頑張る学校応援プラン」  
○「福島県地域学校活性化構想」「地域学校協働事業」「CS」
- 【本校教育目標】  
○知力（知）「主体的に学ぶ生徒」  
○心力（徳）「こころ豊かな生徒」  
○健康・体力（体）「健康でよく働く生徒」
- 【目指す姿】  
○自己理解、自己肯定感  
○郷土愛、地域発見・学習、地域貢献  
○キャリア形成能力 等

#### 地域の方々の参画

- 授業参観、中体連仕掛け会、各種講演会等  
○校内外体育大会【5/23（金）】※保護者応援予定  
○ひうち祭【10/18（土）】※保護者参加予定

- PTA早朝作業①【5/10（土）】  
○PTA早朝作業②【8/30（土）】  
○資源回収ボランティア【年間を通じて】

- 学校の要望に応じたボランティア活動（学校応援団）  
例：校庭整備作業、除雪作業、花苗作業、破損箇所の修繕



#### 評価（学校運営協議会、学校評価（保護者、生徒アンケート）等）

#### 学校から地域へ

- 1年小学校運動会ボランティア活動【5/17（土）】  
○1年環境学習（那須甲子自然の家）【9/10（水）～】  
○2年職場体験学習（村内各箇所）【9/10（水）～】  
○3年幼稚園運動会ボランティア活動【10/4（土）】  
○少年の主張大会参加【8/23（土）】  
○子ども人権会議参加【10/2（木）】等  
○生徒会を中心とした地域貢献活動模索中

#### 地域行事への参画

- 西の郷クロカン、村内一周駅伝等への参加



## イ 地域学校協働活動

教育委員会の生涯学習課に地域学校協働本部を置き、学区に本事業の核となる地域のコーディネーターが配置されている。

- 地域連携担当教職員の指名やコーディネーターとの面談を通して、より良い方策を模索している。

## ウ 家庭・地域との取組

- 子どもたちの見守り隊やPTA奉仕作業等への協力依頼  
○ 家庭・地域住民へのHPなどを活用した情報発信



### ③ 考察

- 学校からの情報発信に努めたことにより、地域や保護者から理解や協力が得られるようになってきている。



- 学校評価等の客観的なデータを分析するとともに、地域との連携・協力体制が持続可能な学校運営協議会の仕組みを構築することが必要である。
- 地域連携担当教職員の役割、地域を担う人材の発掘や育成の課題解決に向けた取組が必要である。

## 【事例3】 地域を素材にした新たな学習活動を活用した取組

### ① 実践のねらい

- 「社会に開かれた教育課程」の実施の後押し
- チームとしての教員組織の意識の向上と実現化に向けた道筋の基盤づくりを推進

### ② 実践の実際と校長としての関わり

#### ア 地域を素材にした新たな学習活動

地域の方々に話を聞き、協力して実験や調査をしたり、実際に体験活動をしたりすることを奨励



## イ 校務分掌の組織を生かした企画・運営のサポート

- 「組織力」を最大化できるよう「先導役」としての役割

### ③ 考察

- 学年教員の「組織力（チーム力）」を活かしやすい体制の構築により、活動が活発化した。
- 地域の方々からアイデアやサポートが得られ、学習活動が充実した。



新たな学習活動に取り組むことにより、  
「主体的・対話的で深い学び」の実現が図られた。

## 視点3 専門スタッフ等との連携による 教員の働き方改革の実現

### 【事例1】 多様な人材を活用し、教員の負担を 軽減した取組

#### ① 実践のねらい

多様な人材を有効に活用し、

- 「生徒と向き合う時間の確保」

- 「授業の質的改善を図る研修の充実」

## ② 実践の実際と校長としての関わり

- ア SC・SSWを活用した生徒指導
- イ SSSを活用した教員の多忙化解消
- ウ ICT教育支援員による授業支援



## ③ 考察

- 専門スタッフの配置により、勤務時間内の負担は大きく軽減された。
- 生徒指導に関する生徒への対応は個別に異なり電話連絡・放課後登校・家庭訪問等は、勤務時間外にせざるを得ない現状である。



各家庭への温かい対応を維持しながら、さらなる教員の「働き方改革」に向けた方策が必要である。

## V 成果と課題

### 1 成果

#### (1) 専門スタッフの導入について

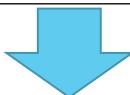
組織の一員として専門スタッフを位置づけ、校務分掌だけでなく、教育課程の中にも計画的に組み込むことにより



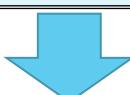
教職員が専門スタッフと協働し、それぞれの専門性を生かした「チーム学校」と「働き方改革」を実現することができた。

#### (2) 地域との連携・協働について

教育課程の改革を進めたことにより



地域との連携・協働を推進することができた。



学校だけではできない予算を伴う対応を行っている情報等を共有することができた。

## 2 課題

多様な人材の専門性を活用し、組織力を高めたり、地域との連携・協働体制づくりを進めたりするには、地域に根ざした人材の確保が必要



- ① 人材を確保するための予算の確保
- ② 人材を活用するためのシステムの構築



- 行政の役割 → 予算の確保
- 学校の役割 → 校務分掌や教育課程の見直しなど

## VI おわりに

- 権限と責任を踏まえて適切に対応していくこと
- 各学校の取組を整理し、着実に推進していくこと



校長として「リーダーシップ」を發揮し、研究実践を積み重ねながら、多様な人材の専門性を生かした「チーム学校」と「働き方改革」の実現に努めていきたい。

ご清聴  
ありがとうございました

東西しらかわ校長会